

普及活動情勢報告（令和4年8月分）

高吾農業改良普及所

JA高知県佐川支所茶生産部会勉強会が開催されました。



勉強会の様子

8月3日、農業技術センター茶業試験場で、JA高知県佐川支所茶生産部会勉強会が開催され、農家・関係機関16名が参加しました。
本年佐川茶工場で加工した一番茶の収穫日ごとのサンプルを用い、茶の外観、水色、滋味、香気の審査方法を学びました。収穫日が遅くなるにつれて葉の形が大きくなり、茎が増えて品質が下がることや、適期に収穫することの重要性を再確認しました。また、保管方法が適切でないと水色や香気の品質低下をまねくことも学びました。
普及所は今後も、高品質茶の生産を支援していきます。

次作に向けて良いイチゴを作るために！～JA高知県佐川支所苺部会園巡り～



育苗ほ場検討会の様子

8月2日、JA高知県佐川支所苺部会農家・関係機関20名が参加し、育苗ほ場3か所での検討会やJA高知県佐川野菜集出荷センターで新資材の勉強会を行いました。
育苗ほ場では、「育苗培土は何を使っているか」などの質問があり、自分の育苗ほ場との違いを確認していました。
また、勉強会では新資材(防虫ネット、光反射シート)の害虫抑制効果を周知しました。生産者は新資材に関心を示し、導入コストについて質問がありました。
普及所は今後も、イチゴ産地の振興に向け、関係機関と連携し支援していきます。

サンショウ農家のリタイヤ対策に向けて～サンショウマップ情報の整理～



マップでプロットされた
サンショウ園地

越知町ではサンショウを食用や薬用に出荷する3組織が活動しており、400筆を超えるほ場で栽培を行っています。
しかし、生産者の高齢化に伴い、遊休園地が増えていくことが懸念されており、普及所で園地情報をマップ化し、組織間や関係機関で情報共有を図る取り組みを進めています。
園地情報の7割程度までデータ入力が進んできたことから、7～8月に関係機関連絡会でマップ情報の使い方についての検討や各組織代表者との打合せを行いました。そして、相互の生産者情報やほ場位置を共有により、リタイヤ農家の園地の担い手探しや新規栽培者の園地探しに活用することで合意が図られました。
今後も普及所はマップの整備を進めていきます。

促成高糖度トマトの定植が始まりました。



定植状況確認の様子

日高村、佐川町で栽培されている促成高糖度トマト「シュガートマト」を栽培する19戸の農家の定植が7月30日より始まりました。普及所では、定植から各農家のほ場を巡回し、生育の状況に応じた適切なかん水管理・施肥管理について指導を行っています。農家からは「かん水量は適切なのか」「葉露の状態は」などの意見があり、土壌水分の状態を確認しながら助言をしています。
高糖度トマトは定植から1ヶ月の栽培管理が出荷時の糖度に影響するため、普及所は引き続き個別巡回を行い高糖度トマトの安定生産・高品質化につなげていきます。